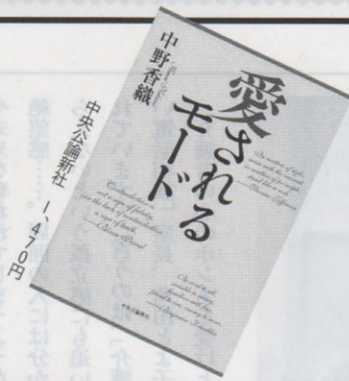


最近、面白い本読みましたか
今回のテーマは生きるヒント。ファッション、映画、介護の秘訣など5人のかたが語ります。

著者インタビュー

本を読んで
どうしても
逢いちくなさ...。



撮影・武方賢治



愛されるモード 中野香織さん

なかの かおり

ファッションは学問たりうるか。「アカデミズムの世界では学問の対象外という空気を感じます。着るものに関心を払うなんて知的ではないと。日本のストリートファッションは世界が注目するカルチャーなんですけどね」

中野香織さんは英国文化史を専攻した。肩書は服飾史家。「ファッションよりもファッションについて書かれた言葉に魅かれます。欧米にはファッションの書物はたくさんあり、これから掘り出し甲斐があります」

本書は2001年から'08年までに日本経済新聞に連載した『モードの方程式』というコラムを選んでまとめたもの。「ファッションがわからないおじさん向け」という依頼でした。モードにはたくさん意味があります。時代の趨勢、流行、心

のありかた、社会の慣習、自分の表し方などです。世の中のニーズや出来事から私たちがどんな時代の様相(モード)の中にいるのかを考察しました」

取り上げるジャンルは政治や経済、服装と幅が広い。バラク&ミシェルのおバマ夫妻はジョン&ジャッキーのケネディ夫妻の装いを連想させ、その連想はアーサー王の理想郷のイメージにつながるという鋭い指摘。ヒラリー・クリントン上院議員の「胸の谷間」報道と中野さん流の解説などなど、本書に収録された88編には驚きと発見がある。

「週に1回の連載で、7年間、夏休みも正月休みも返上しました。ネタがない状況でも積極的

に『方程式』を創造しました」

シルエットはフランスの大臣だった、サンタクロースの服の変遷など、服飾知識の宝庫のような本書だが際立つ特徴は文体だ。「三島由紀夫が好きです。緻密で学問的で、英語を日本語に翻訳したような文章がいい」

中野さんの文章も理知的で論理的で内容が充実している。「モードは変わっても、普遍的な人間の営みや人の心は変わりません。人間の心の不可解さや矛盾も描きたかった」

昨年からは明治大学国際日本学部特任教授としてファッション文化論を講義している。「ファッションは研究に値すると認められたと思います」

中野さんは今日もファッション研究の新たな扉を開けている。

撮影・松尾成美

上京物語 僕の人生を変えた、父の五つの教え

「いつもは普通の二児の父です(笑)。子どもが生まれるとき、妻を見てすごいと思ったんですよ。女性は命をかけて命を生み出してゐるんだ、と。じゃあ父親の自分はいったいどこからきて、何ができるのか。妻と食事をしてゐるときに、ふつとい

ろいろ思い至ったんです。それを大きくなった我が子たちに伝えたいと日記のようなものを書き記したのが始まりです」

当時の喜多川泰さんは自分の手を見て、この手を作っている物質はどこからきてどこへいくのか、そんなことを考えたとい

喜多川泰さん

きたがわ、やすし

事をしてゐるときに、ふつとい

ろいろ思い至ったんです。それを大きくなった我が子たちに伝えたいと日記のようなものを書き記したのが始まりです」

当時の喜多川泰さんは自分の手を見て、この手を作っている物質はどこからきてどこへいくのか、そんなことを考えたとい

きたがわ、やすし

研究の新たな扉を開けている。